

精 神 科

【目標】

わが国の社会構造は、人口の高齢化や核家族化の進展、あるいは高度情報化社会の到来などにより益々複雑・多様化し、職域や学校さらには家庭環境におけるメンタルヘルスの維持増進が重要な課題となっている。医療分野においても、医療の細分化とそれに連動する高度先進医療の発展には目覚ましいものがあるが、一方で全人的医療、とりわけ精神医療に対する需要が増加している。本実習では、既に系統講義などで履修した知識を元に、治療チーム(病棟およびリエゾン)の一員として患者の診察に当たることで臨床現場に求められている精神医療についての理解を深めることを主な目的とする。

【実習の実際】

到達目標

- (1) 外来実習 : 外来診療における基本的な診療技術のノウハウを理解する。
 1. 患者の精神症状を的確に把握するための問診方法について学習する。
 2. 患者および患者家族の心理状態と行動特性について検討する必要性を理解する。
 3. 臨床診断と治療計画の立案過程について学習する。
- (2) 病棟実習 : 主治医チームの一員として行動をともし、入院治療の実際と臨床経過について学習する。
 1. 精神保健福祉法に則した入院治療への導入と入院手続きの方法を理解する。
 2. 治療計画の立案と実際の治療法について学習する。
 3. チーム医療の重要性と保健・福祉領域などの社会資源の利用方法を学習する。
- (3) コンサルテーション・リエゾン精神医療実習 : コンサルテーション・リエゾンチームの一員として行動をともし、身体科医療チームとの連携方法などについて学習する。
 1. 身体科に入院中の患者の精神医学的問題の把握方法について理解する。
 2. 患者や患者家族の心理状態を評価し、治療計画の立案に至る過程を学習する。
 3. 身体科医療チームとの連携の在り方について理解する。

評価方法

- ・出席点(25点)、指導医による実習態度の評価(25点)、試問(25点)、レポート(25点)を通して、精神症候学や疾患に関する知識、情報を収集・分析し問題点を抽出する技能を評価する。
- ・病棟・リエゾン・外来での実習態度を通して、病気だけでなく患者心理を含めた全人的な理解の程度、共感的態度をふくめた基本的コミュニケーション技能、プライバシーへの配慮などを評価する。
- ・正当な理由のない欠席(-5点/日)、遅刻、早退、所在不明(-2点/回)は出席点(25点)から減点となる。

担当教員

岡本 泰昌	教授
山下 英尚	准教授
岡田 剛	講師
吉野敦雄	講師
淵上 学	講師
倉田明子	診療講師
撰 尚之	助教
藤田洋輔	助教
神人 蘭	助教
片岡 努	助教

【日程表】

	月	火	水	木	金
9:00	ガイダンス (精神科医局) リエゾン実習	病棟実習 外来実習	カンファレンス 5 西病棟回診 11:00 学生担当患者カ ンファレンス	病棟実習	08:00 ECT 見学 リエゾン実習 病棟実習
12:00	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み
13:00	病棟実習 16:30 リエゾンチャート カンファレンス	病棟実習 外来実習 リエゾン実習 16:30 病棟チャート カンファレンス	社会支援実習 (外来 13 診) 心理支援実習 (外来 13 診) 15:00 病棟実習	リエゾン実習 外来実習	リエゾン実習 病棟実習 16:00 試問 (精神科医局)

1. 月曜日 9:00 より臨床研究棟 8階精神科医局にてオリエンテーションを行う(月曜日が祝日の場合は火曜日 9:00 より行う)。
2. 病棟実習では担当患者を割り当てるので、指導医の指導を受け、医療チームの一員としての責任を果たしチームに貢献する姿勢をもって実施すること。
3. 外来実習およびリエゾン実習ではそれぞれ初診患者の診察を中心に見学するので、患者や家族のニーズの把握、診断に必要な情報を得て診療の方針を立てるプロセス、患者側のニーズと診療方針をすり合わせがどのように行われるか、など十分学習すること。
4. 病棟カンファレンス、リエゾンカンファレンス、回診に参加することにより、受け持ち以外の患者の疾患についても診断・治療の実際を積極的に学習すること。
5. 実習期間中、参考図書(標準精神医学)を貸し出す。

<レポート内容 (A4 用紙 3-4 枚) >

- ・レポートは、入院受け持ち患者について年齢、性別、イニシャル、指導医、診断、主訴、家族歴、教育生活歴、既往歴、現病歴、現症(入院時および現在)、入院後経過、治療法、考察(鑑別診断および診断の根拠など)を記述すること。
- ・レポートの内容は、担当医の記載や教科書の丸写しではなく、自分が患者と会って得た情報や体験を重視し、何を考えたのかを記載すること。

【注意事項】

1. 実習に入る前に精神科の講義を十分復習しておくこと。
2. 正当な理由のない欠席の場合は卒試の受験資格がなくなるので注意すること。
遅刻は減点になる。(病気等の理由による欠席時は 082-257-5207 に連絡すること)
3. 患者さんへのプライバシーについては十分配慮し、医師の守秘義務を守ること。
4. 実習は治療チーム(病棟およびリエゾン)の一員として配属されるので、振る舞いに注意すること。実習期間中(時間中)は治療チームと常に連絡が取れるようにしておくこと。